



痛風の治療と検査の流れ



経過	初診
検査	・採血・採尿 ・関節レントゲン (必要な場合のみ行いますクリアランス検査時に行うこともあります)
治療	関節の痛みが出現している時(痛風発作)は程度によって鎮痛剤処方や点滴、関節注射をします。
説明指導	クリアランス検査について
備考	クリアランス検査を希望され、検査条件を満たしていれば、当日検査も可能です。



検査予約日	<ul style="list-style-type: none"> ・クリアランス検査(2時間) ・腹部超音波検査 (尿管結石を合併していないか確認します) ・採血・1時間蓄尿
	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養相談初回(管理栄養士より) ・高尿酸血症の合併症について(看護師より)
	<p>検査前に下記を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿酸降下薬を1週間以上中止 ・痛風発作が起きていない ・昨日21時以降禁食している ・昨日飲酒していない <p>※水・お茶のみ飲水は可能です。</p>



クリアランス検査4日以降に予約	<ul style="list-style-type: none"> ・クリアランス検査結果が出ます。 ・関節超音波検査(必要に応じて)
	<ul style="list-style-type: none"> ・病状のタイプによって尿酸降下薬を開始します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養相談(クリアランス検査日の栄養相談を含めて計3回行います。必要に応じて4回実施することもあります) ・内服について(看護師より)
	<p>尿酸降下薬開始後は、血清尿酸値の低下により一時的に痛風発作が起こりやすくなることがあります。尿酸降下薬服用中に痛風発作が起きた時は、尿酸降下薬を中断しないでそのまま服用しながら、鎮痛薬と一緒に服用してください。</p>



原則として1回/月の通院	<ul style="list-style-type: none"> ・採血・採尿 (半年間は1回/月、以後1回/数ヶ月) ※薬が体にあっているか確認するためです ・腹部超音波検査 1回/年 ・関節超音波検査(必要に応じて) <p>検査結果により尿酸値6.0mg/dl以下を目標に投薬量を増減します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養相談1回/数ヶ月 (尿酸値や体重のコントロールに合わせて行います) ・看護師より痛風に関する新しい情報や生活改善・薬の飲み合わせなど必要に応じて説明します。
	<p>薬で尿酸値が下がっても、関節に蓄積した尿酸塩結晶はゆっくり溶けていきます。投薬治療とともに生活習慣の改善に取り組んでいきましょう。</p>
	 <p>尿酸塩結晶</p> 

予後



痛風の治療は、原則として生涯にわたります。

痛風発作の消失の目安は血清尿酸値6.0mg/dl以下となってから約5年間以上です。

血清尿酸値4.0mg/dl台になると尿酸降下薬を減量します。

尿酸降下薬を減量しても血清尿酸値5.0mg/dl台を維持するようなら薬を中止(2週間程度)して尿酸クリアランス検査をします。

検査結果により投薬治療の継続の必要性を判断します。